

# 2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明会用資料

2025年11月26日



レオン自動機株式会社  
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.  
証券コード（6272）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

レオン自動機株式会社　社長の小林でございます。

「2026年 3月期 第2四半期 決算説明会」を始めさせていただきます。

◆ 目 次

- 1. 2026年3月期 上期連結決算概況**
- 2. 2026年3月期 通期連結業績予想**

本日は、ご覧の順番で進めてまいります。

どうぞよろしくお願ひいたします。

◆ 目 次

## 1. 2026年3月期 上期連結決算概況

## 2. 2026年3月期 通期連結業績予想



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

4

それでは、「2026年3月期 上期連結決算概況」について  
ご説明いたします。

## ◆ 連結計算書サマリー（上期）

(百万円)	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期計画 (2025年5月14日)	2026年3月期 上期実績	前年同期比 増減額	増減率 (%)
売上高	19,693	19,550	19,937	244	1.2 %
営業利益	2,764	2,460	2,448	▲316	▲11.4 %
経常利益	2,727	2,380	2,556	▲171	▲6.3 %
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,889	1,700	1,710	▲179	▲9.5 %
1株当たり中間純利益	70.38 円	63.26 円	63.55 円	▲6.83 円	—
中間配当	21.00 円	24.00 円	27.00 円	6.00 円	—
期中平均為替レート	USドル=152.63 円 ユーロ= 165.95 円	USドル=140.00 円 ユーロ= 158.00 円	USドル=146.04 円 ユーロ= 168.06 円	—	—



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

5

2026年3月期 上期は、

売上高	199億3千万円、
営業利益	24億4千万円、
経常利益	25億5千万円、
中間純利益	17億1千万円 となりました。

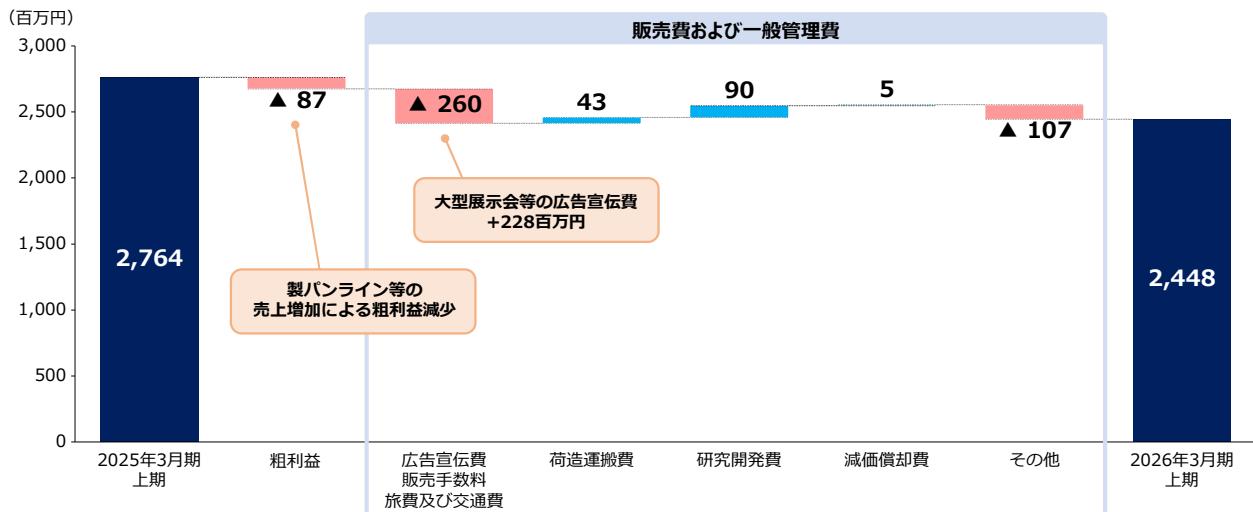
前年同期比では、

売上高は 1.2 % の増収ですが、  
 営業利益は 販管費の増加もあり、 11.4 % の減益  
 となりました。

なお、売上高への為替による影響額は4億3千万円でした。

## ◆ 営業利益増減（上期）

- 大型製パンライン等の受注が継続し売上は増加したが、粗利益は減少。
- 営業利益への為替影響額は▲38百万円。



RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

6

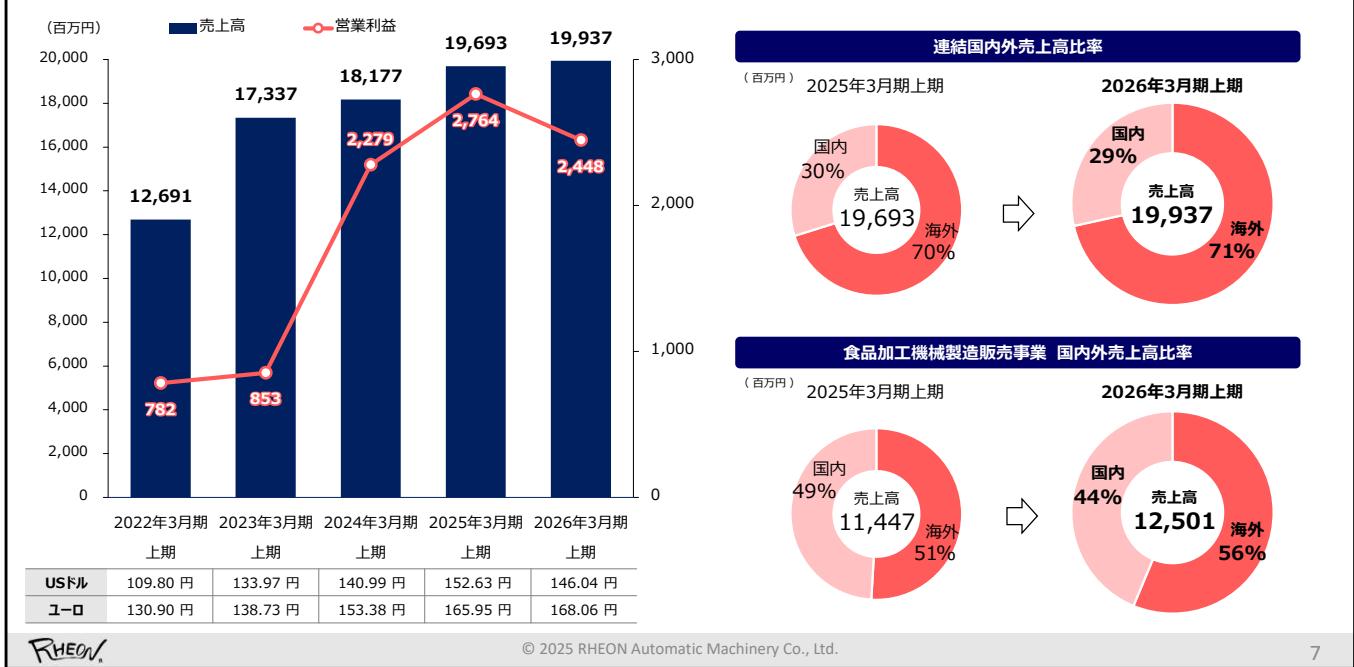
このチャートは、営業利益の増減要因を示したものです。

左側の、27億6千万円 が、前年度上期の実績、  
右側の、24億4千万円 が、2026年3月期上期の実績です。

大型製パンライン等の受注が継続し、売上は増加しましたが、  
欧米での展示会等の広告宣伝費や販売手数料が増加したことにより、  
3億1千万円の減益となりました。

なお、営業利益への為替による影響額は、マイナス3千8百万円でした。

## ◆ 過去 5 年の業績推移（上期）



過去 5 年間における業績推移のグラフと国内外の売上高比率を  
グラフにしました。

世界的な人件費高騰や人材確保の難しさもあり、  
省人化・自動化の設備投資需要が継続しました。

国内・海外の売上高比率を円グラフにして見ると、  
連結ベース全体の海外売上高比率は、上の円グラフの通り、  
昨年より 1 ポイント増加の 71 %、  
「**食品機械事業**」は、下の円グラフの通り、  
5 ポイント増加の 56 %でした。

これは、アメリカ市場とアジア市場における食品機械の売上が増加したことが  
主な要因です。

## ◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高・セグメント利益》(上期)

### 食品加工機械製造販売事業

米国・アジア市場の販売は好調に推移したが、日本・欧州の販売は前期を下回った。

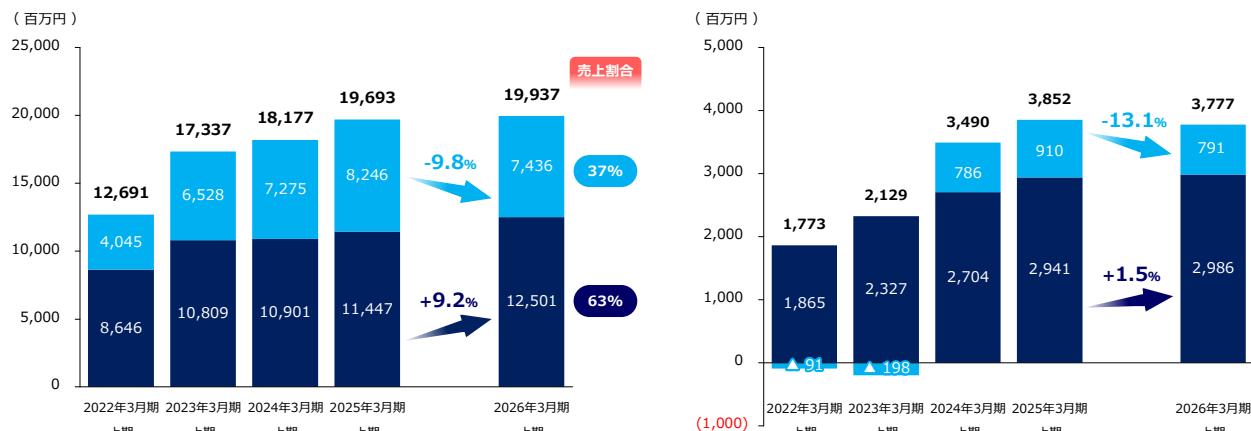
### 食品製造販売事業

米国において、一部顧客への販売が終了した影響等により減収。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

#### 売上高

#### セグメント利益

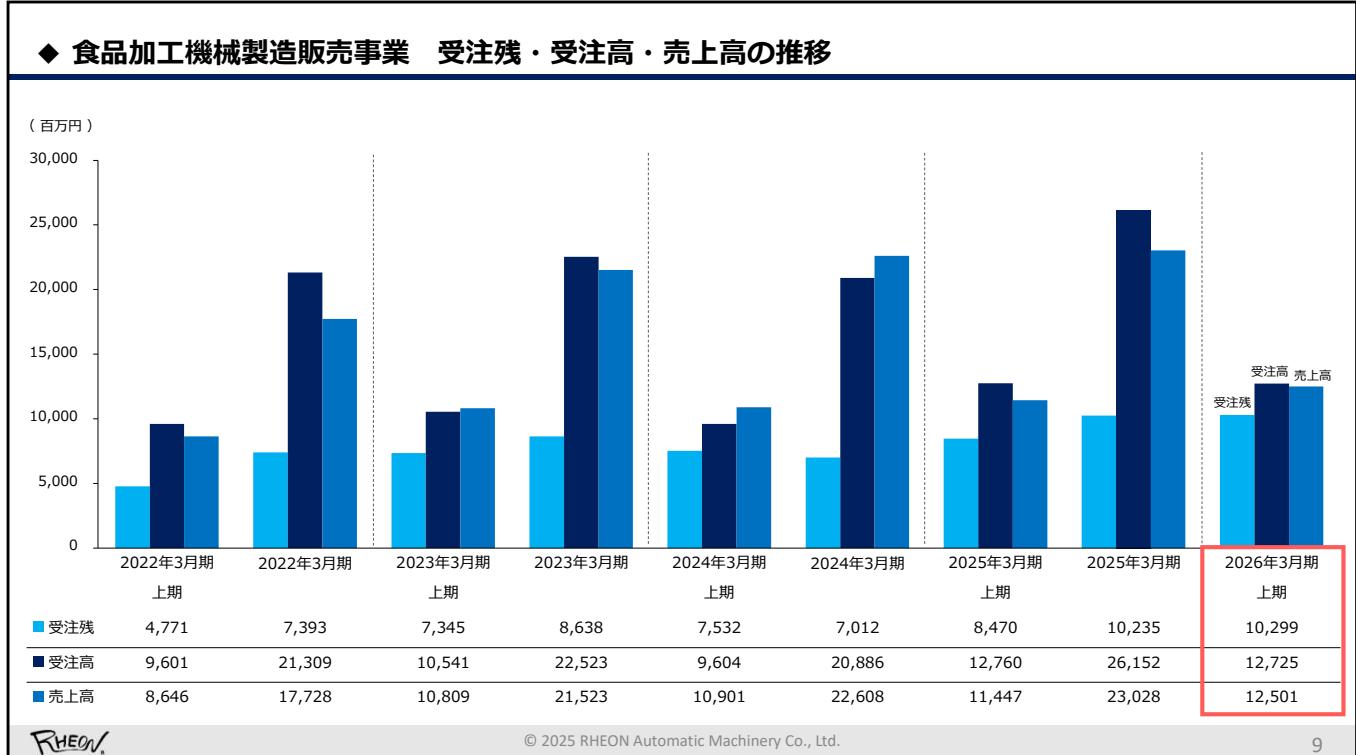


次に、事業別売上高とセグメント利益です。

「**食品機械事業**」は、前年同期比で、  
売上高が 9.2 %増加し、  
セグメント利益も 1.5 %増加となりました。

「**食品事業**」においては、  
売上高が 9.8 %減少し、  
セグメント利益も 13.1 %減少となりました。

特に「**食品事業**」は、オレンジベーカリーにおいて  
パンの消費動向の変化や  
一部顧客への販売が終了し、売上高が減少しました。



「食品機械事業」の上期の受注高と受注残については、

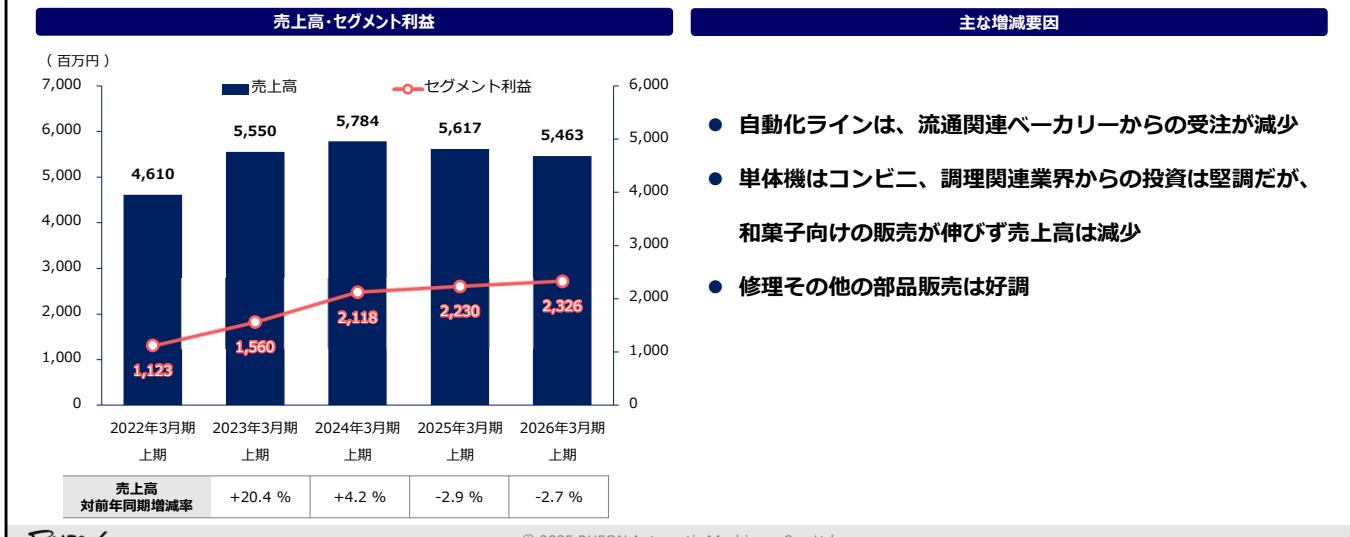
受注高が127億2千万円、受注残は102億9千万円となりました。

特に大きく伸ばしたのは、受注高、受注残とともに

アメリカ市場とヨーロッパ市場でした。

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

- 大型製パンライン等の好調な受注が継続し、食品成形機の売上減少をカバーして1Qの減収幅を縮小した。
- 下期納入案件は上期比で増加する予定であり、通期計画を達成する見込み。



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

10

地域別の状況について、もう少し詳しくご説明いたします。

国内市場では、

売上高は2.7%減少しましたが、  
セグメント利益は4.3%増加しました。

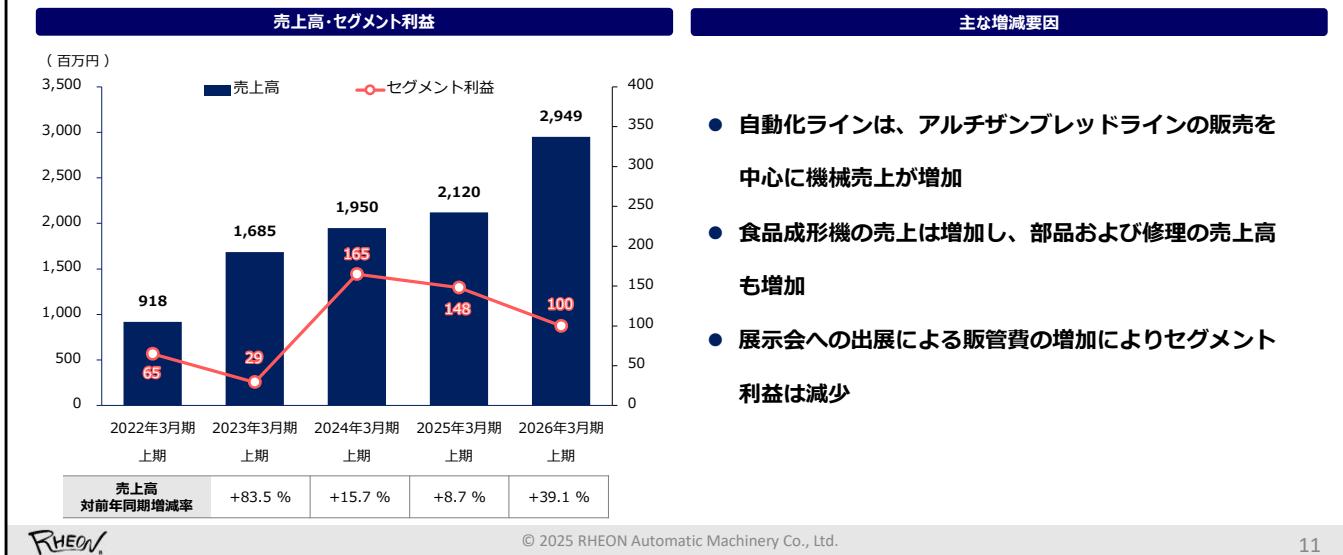
自動化ラインは、大手ベーカリーや製菓メーカーの設備更新や  
新規投資が見られ、売上高は増加しました。

包あん機などの単体機は、  
コンビニ、調理業界からの投資は堅調に推移しましたが、  
和菓子向けの販売が減少したことにより、売上高は減少しました。

修理その他の部品販売は好調で、メンテナンスの売上高は増加しました。

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッドやコンチャの生産ライン販売が引き続き好調で売上が増加。
- 製パンライン等の今期案件は確保できており、来期受注も順調に推移している。



アメリカ市場では、

依然として人手不足による人件費の高騰により  
生産の合理化需要が継続しております。

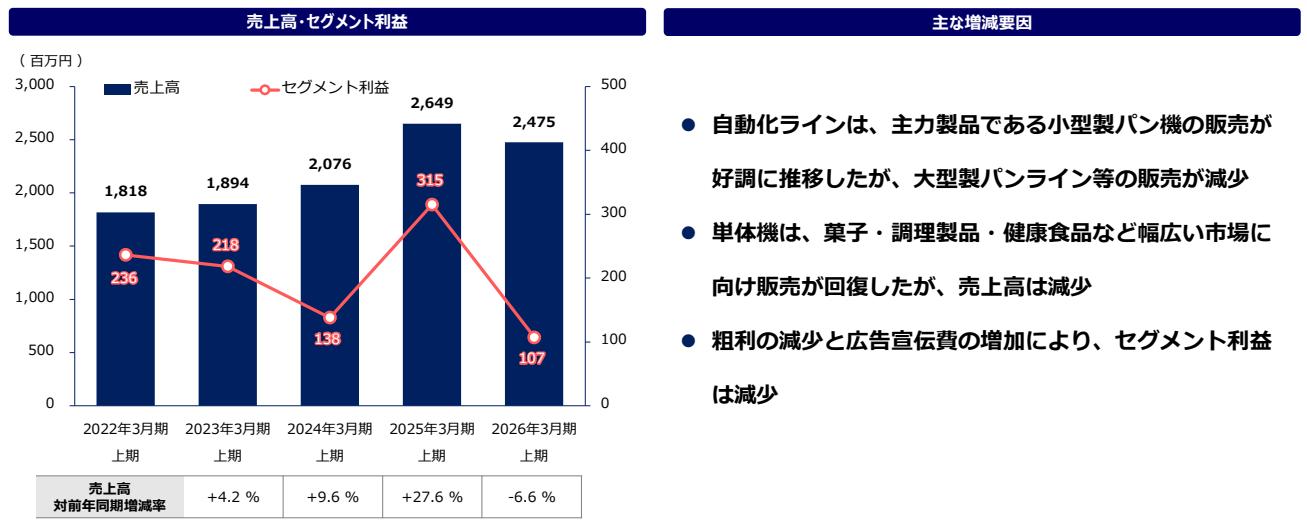
売上高は、現地通貨ベースで 4.5. 4 %、  
円ベースでは 3.9. 1 % 増加しました。

自動化ラインはアルチザンブレッドラインなど大型製パンラインの販売が  
好調を維持し、機械売上が増加しました。  
包ん機など食品成形機の売上も増加し、  
部品および修理の売上も増加しました。

なお、大型展示会への出展による販管費の増加により、  
セグメント利益は減少しました。

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

- 製パンライン等は小型製パン機の販売が好調を維持しており、下期計画分の受注をほぼ確保できている状況。
- 大型製パンライン等の下期納入案件が増加する見込みであり、通期計画は達成する見込み。



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

12

ヨーロッパ市場では、

売上高が、現地通貨ベースで 7.7%、  
円ベースで 6.6%、ともに減少しました。

自動化ラインは、

主力製品である小型製パン機の販売が好調に推移しましたが、  
大型製パンラインの売上高が伸び悩みました。

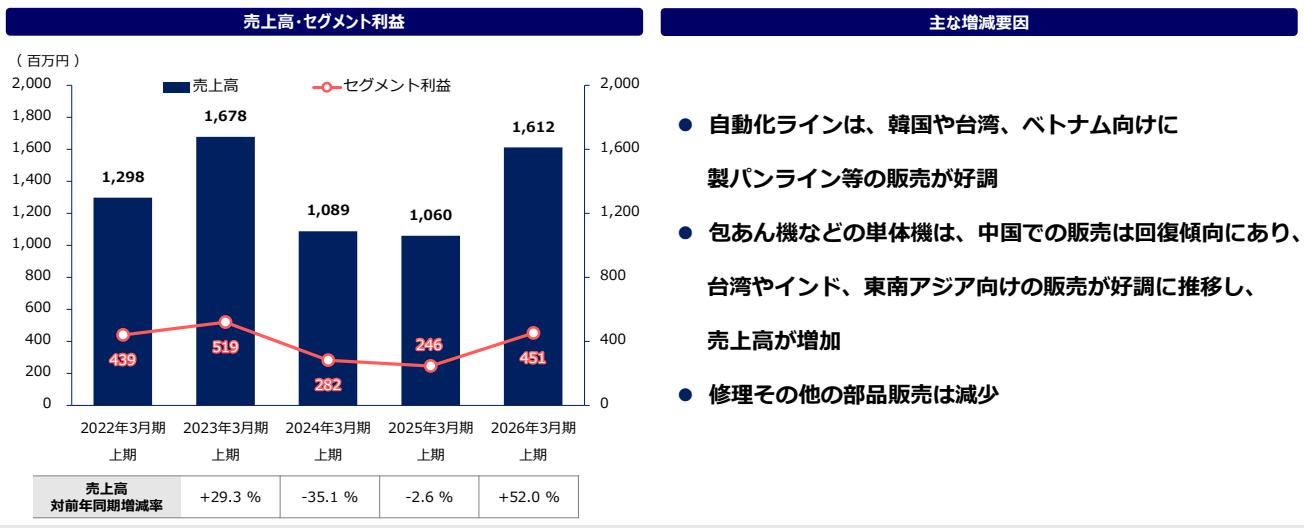
包あん機などの単体機は、

菓子や調理製品、健康食品など  
幅広い市場向けの販売が回復してきましたが、売上高は減少しました。

なお、粗利の減少と広告宣伝費の増加により、  
セグメント利益は減少しました。

## ◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

- 大型製パンライン等、食品成形機の大口案件確保等により大幅増収となつた。
- 下期納入案件は上期比で増加する予定であり、通期計画を達成する見込み。



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

13

### アジア市場について説明いたします。

製パンライン、食品成形機とともに販売が好調に推移し、  
売上高は 5.2 %、セグメント利益も 8.2. 7 % 増加しました。

自動化ラインは、  
韓国や台湾、ベトナム向け製パンラインの販売が好調であり、  
売上高は増加しました。

包あん機などの単体機においては、  
中国での販売は回復傾向にあり、また、台湾やインド、東南アジアでの販売が  
好調に推移したことにより、売上高が増加しました。

一方、修理その他の部品販売は減少しました。

## ◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》 (上期)

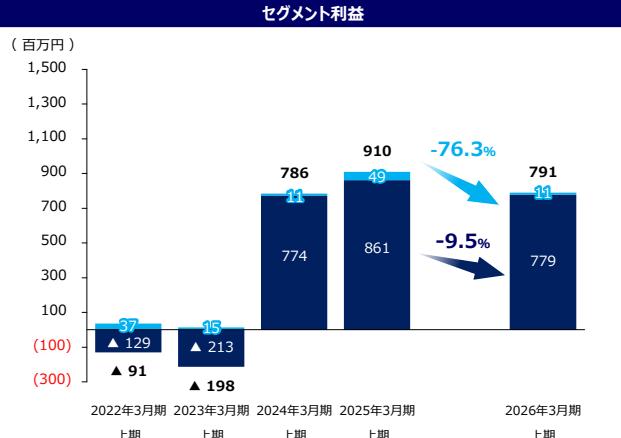
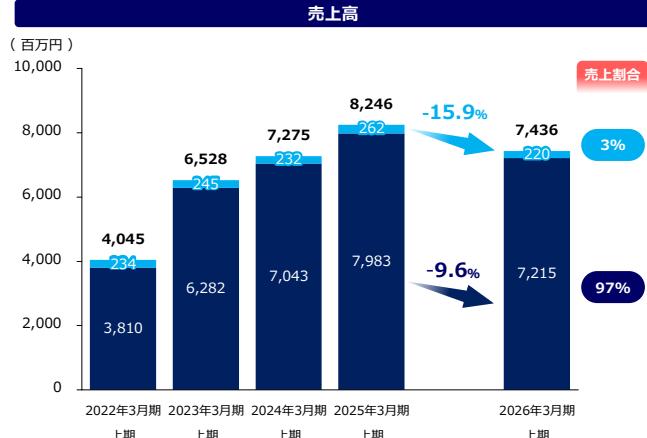
### 売 上 高

- 北米・南米 円高進行により大幅減収となったが、現地通貨ベースでは▲5.5%の減収。
- 日本 販売先の需要低迷により減収。

### セグメント利益

- 北米・南米 営業利益率は10.7%と前期同等。
- 日本 売上高の大幅減収により利益水準も大幅に低下。

■ 北米・南米（オレンジベーカリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）



次に「**食品事業**」の状況です。

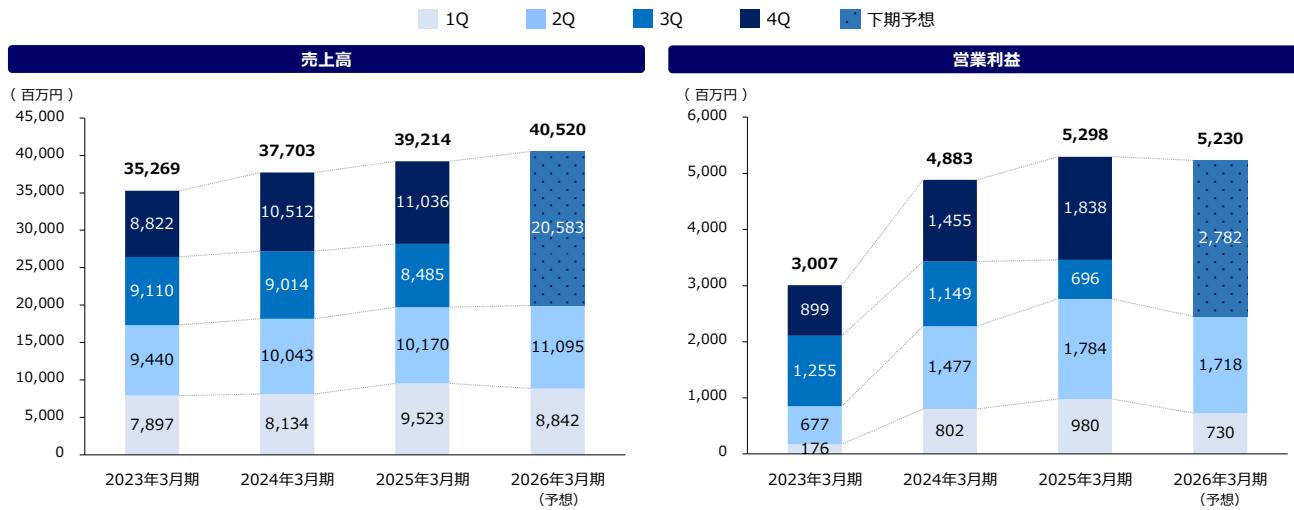
アメリカのオレンジベーカリーは、  
一部顧客への販売が終了し、  
売上高は、現地通貨ベースで5.5%、  
円ベースで9.6%減少しました。

セグメント利益は、7億7千9百万円となりました。  
なお、営業利益率は前期と同様10.7%です。

国内のホシノ天然酵母パン種につきましては  
夏季の温度上昇によるパンの需要低迷が影響し、  
売上高、利益ともに減少しました。

## ◆四半期毎の売上高・営業利益推移

- 2Q（7月－9月）売上高は製パンライン等の販売が好調であり前期比9.1%増加、下期の受注もほぼ確保できている状況。
- 下期の売上高予想が上期を上回る見込みであり、下期の営業利益も上期比増益となる見込み。



四半期ごとの売上高、営業利益の推移を説明いたします。

左側のグラフは売上高を示します。

第2四半期の売上高は、

製パンライン等の販売が好調であり前期比9.1%増加、

下期の受注もほぼ確保できている状況で、

売上高は前年度を上回る405億2千万円を予測しております。

右側のグラフは、営業利益を示します。

下期の売上高、および営業利益は上期を上回る見込みですが、

通期営業利益は前年比1.2%減少の

52億3千万円を予測しております。

◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2025年3月期 (2025年3月31日)		2026年3月期上期 (2025年9月30日)					主な増減要因
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)		
資産合計	49,242	100 %	50,078	100 %	836	1.7 %	—	
流動資産	29,073	59.0 %	24,033	48.0 %	▲5,040	▲17.3 %	● 現金及び預金の減少 (オレンジベーカリー新工場)	
固定資産	20,168	41.0 %	26,044	52.0 %	5,876	29.1 %	● 有形固定資産の増加 (オレンジベーカリー新工場)	
負債合計	10,527	21.4 %	10,056	20.1 %	▲471	▲4.5 %	—	
流動負債	8,867	18.0 %	8,495	17.0 %	▲372	▲4.2 %	● 未払い法人税等の減少 ● 前受金の減少	
固定負債	1,660	3.4 %	1,561	3.1 %	▲99	▲6.0 %	● 長期借入金の減少 ● リース債務の減少	
純資産合計	38,715	78.6 %	40,021	79.9 %	1,306	3.4 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加	
負債純資産合計	49,242	100 %	50,078	100 %	836	1.7 %	—	

貸借対照表サマリーについて、主なポイントをご説明いたします。

流動資産は、

オレンジベーカリー新工場建設に伴う投資額が増加したことにより  
現金及び預金が減少しました。

固定資産は、有形固定資産および投資有価証券が増加しました。

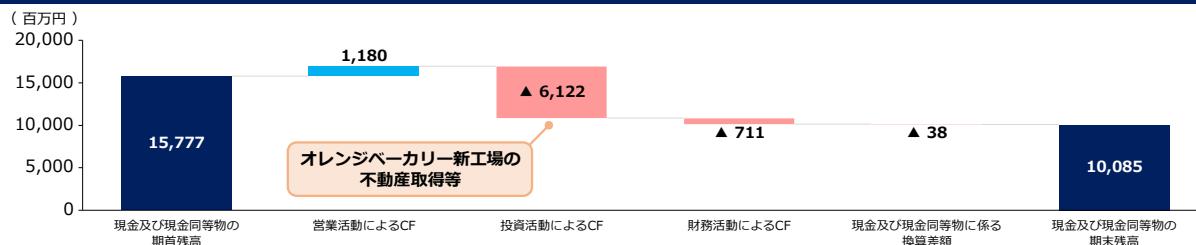
流動負債は、前受金および未払法人税等が減少しました。

固定負債は長期借入金やリース債務が減少しました。

純資産は利益剰余金等の増加により、

対前年比で3.4%の増加となりました。

## ◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）



(百万円)	2025年3月期上期	2026年3月期上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	13,591	15,777	—
営業活動によるCF	1,824	1,180	<ul style="list-style-type: none"> <li>税金等調整前中間純利益 2,556</li> <li>減価償却費 771</li> <li>法人税等の支払額 ▲1,118</li> </ul>
投資活動によるCF	▲928	▲6,122	<ul style="list-style-type: none"> <li>有形固定資産の取得 ▲5,865</li> <li>無形固定資産の取得 ▲254</li> </ul>
財務活動によるCF	▲662	▲711	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期借入金の返済 ▲170</li> <li>配当金の支払額 ▲618</li> </ul>
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲334	▲38	—
現金及び現金同等物の増減額	▲101	▲5,692	—
現金及び現金同等物の期末残高	13,490	10,085	—

RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

17

キャッシュ・フロー・サマリーです。

現金及び現金同等物の期首残高は

157億7千万円でしたが、

期末残高は、

アメリカ オレンジベーカリー新工場の不動産取得等により、

100億8千万円となりました。

◆ 目 次

1. 2026年3月期 上期連結決算概況
2. 2026年3月期 通期連結業績予想

次に、「2026年3月期 通期連結業績予想」について  
ご説明いたします。

## ◆ 2026年3月期 通期連結業績予想

- 上期業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正。

(百万円)	2025年3月期実績	2026年3月期予想 (2025年11月12日)	増減額	増減率 (%)
売上高	39,214	40,520	1,306	3.3 %
売上原価	21,420	22,530	1,110	5.2 %
販管費	12,495	12,760	265	2.1 %
営業利益	5,298	5,230	▲68	▲1.3 %
経常利益	5,415	5,320	▲95	▲1.8 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,889	3,600	▲289	▲7.4 %
期中平均為替レート	USドル=152.58円 ユーロ= 163.75円	—	—	—
想定為替レート	—	USドル=146.00円 ユーロ= 168.00円	—	—



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

19

2026年3月期の通期計画は、  
当中間連結会計期間の実績および今後の経済動向を勘案し、

売上高 405億2千万円、  
営業利益 52億3千万円、  
経常利益 53億2千万円、  
当期純利益 36億円 と

5月に発表した業績予想より上方修正いたしました。

なお、想定為替レートは、  
ドルが146円、ユーロが168円に、変更しております。

## ◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

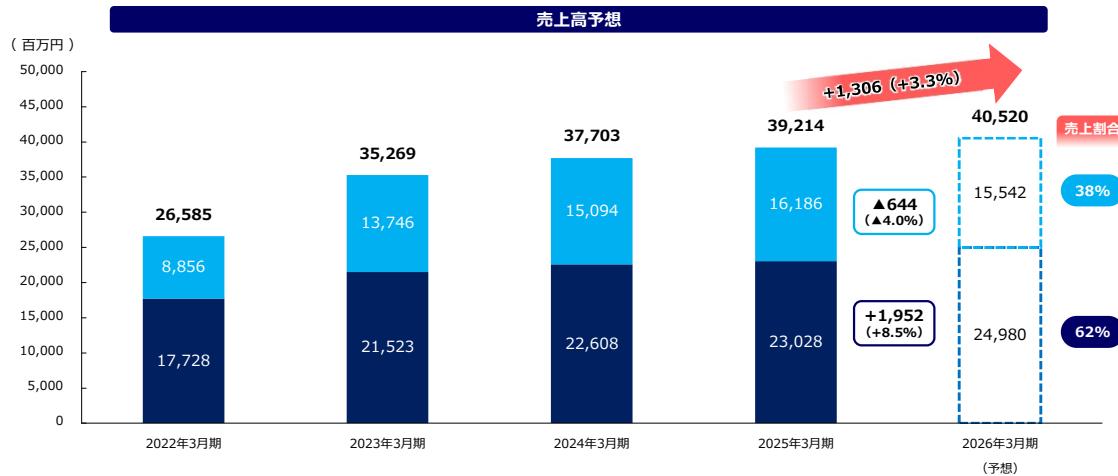
食品加工機械製造販売事業

人件費高騰に対応した自動化の設備投資需要継続により、売上高が増加すると予測。

食品製造販売事業

米国のパン市場動向の変化により、円ベースでは売上高が減少すると予測。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

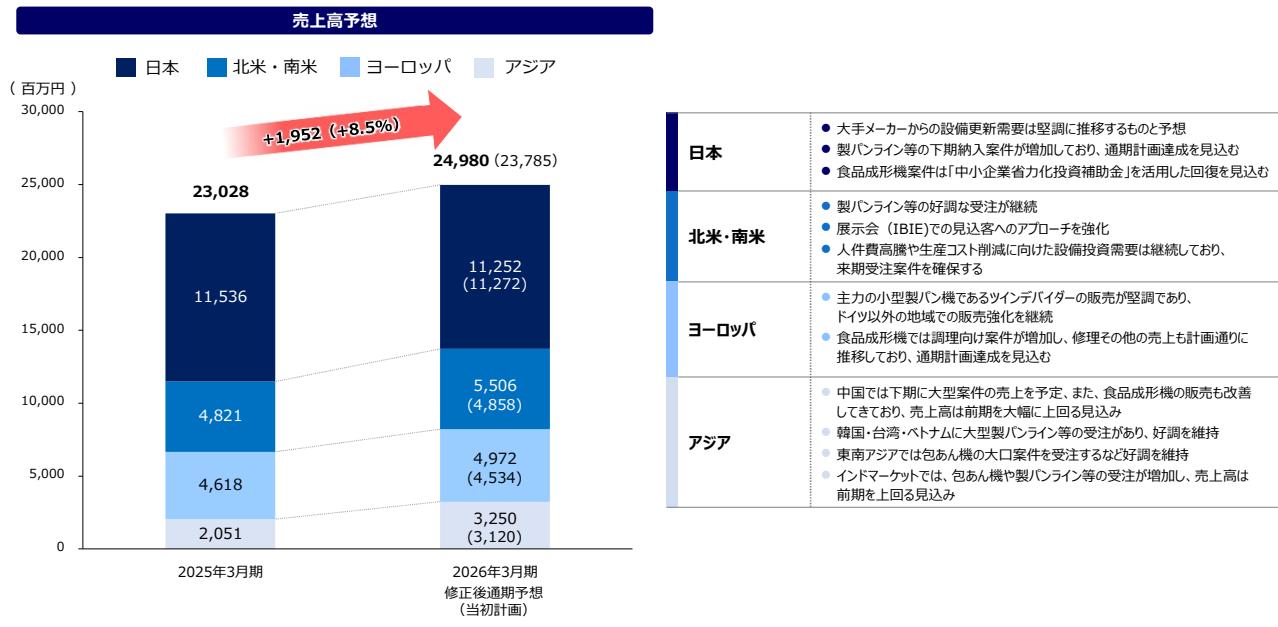


事業別の通期の見通しとして、

「**食品機械事業**」は、  
人件費高騰に対応した自動化の設備投資の需要継続が見込まれ、  
売上高は前年度比 8.5 %の増加を予測しております。

「**食品事業**」ですが、  
アメリカ市場では上期の減少分を取り戻すべく、  
セールス活動を強化してまいりますが、  
売上高は 前年比で減少すると予測しております。

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業



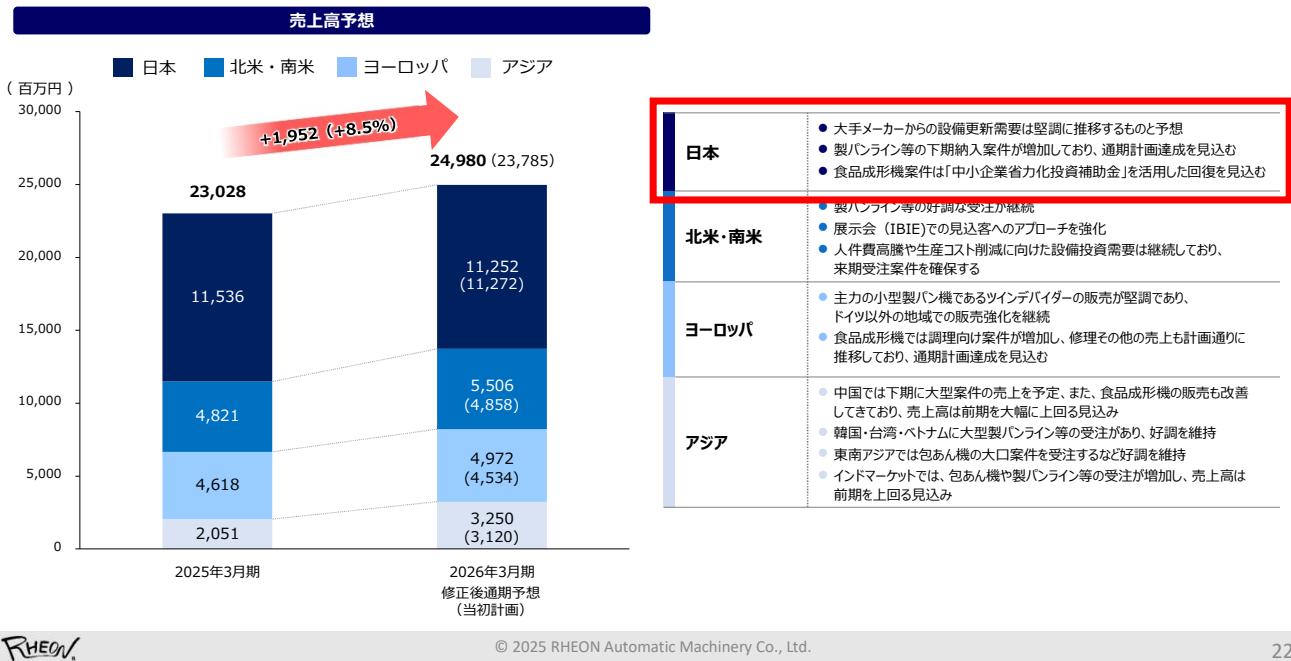
RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

21

それでは、「**食品機械事業**」の地域別の見通しについて  
ご説明いたします。

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業



国内市場では、

自動化ラインは、大手製パン、製菓メーカーからの設備買替や増設の需要が堅調に推移しており、下期納入案件の受注が増加しております。

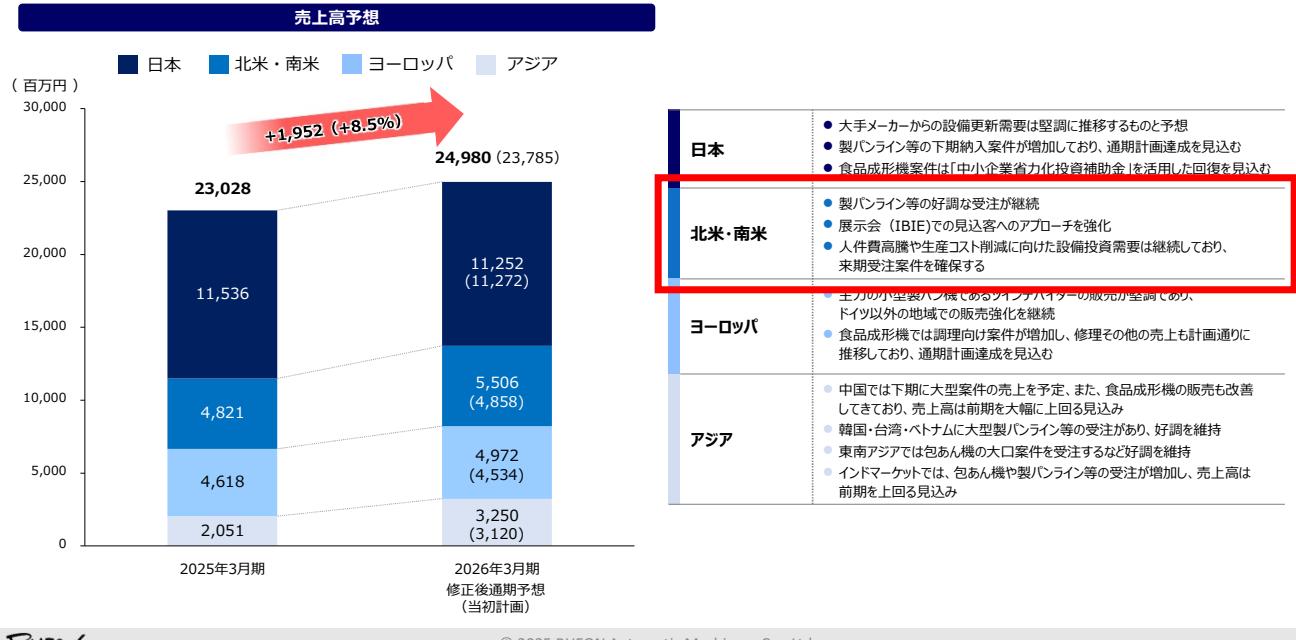
包あん機等の単体機に関しては、

補助金を活用した和洋菓子業界からの受注が増加傾向にあります。

国内市場全体としては、

売上高が前年比でわずかに減少すると予測しております。

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業



アメリカ市場では、

自動化ラインにおいては、下期も省人化に向けた投資が活発となり、

アルチザンベーカリー向け製パンラインの需要が

好調に推移すると見込んでおります。

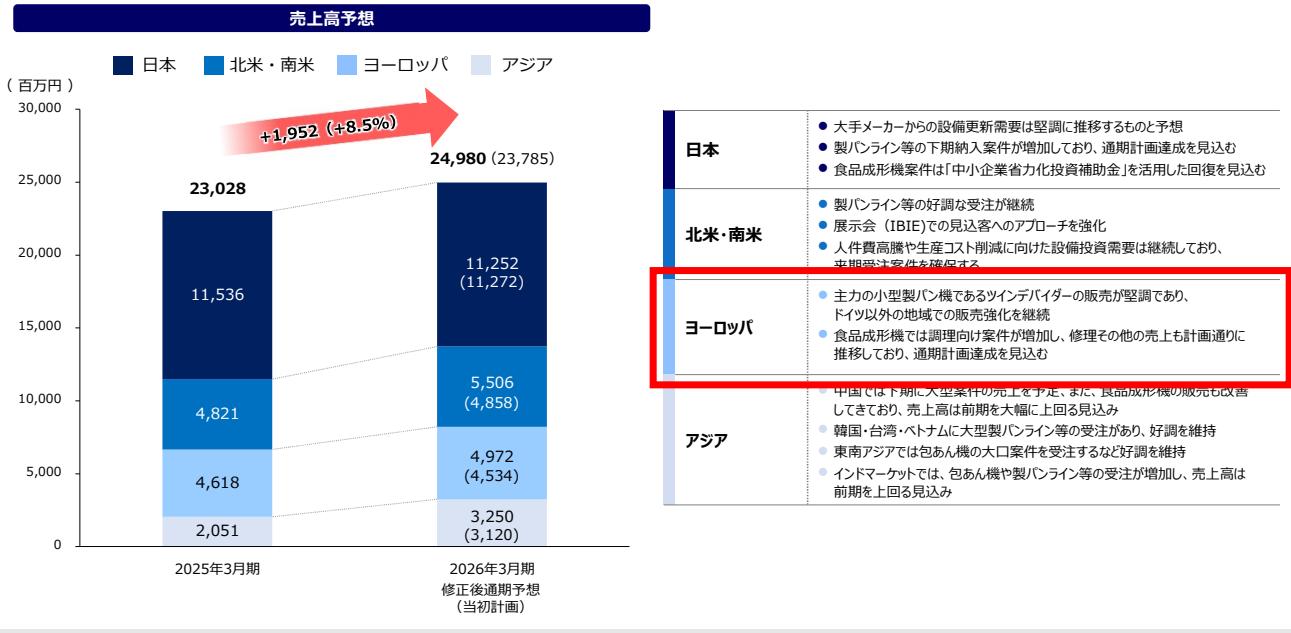
包あん機においては、

スーパーマーケット向けの冷凍・チルド製品や、

南米エスニック商品向けの設備投資が増加しております。

アメリカ市場全体では今期も売上を伸ばすと予測しております。

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業



RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

24

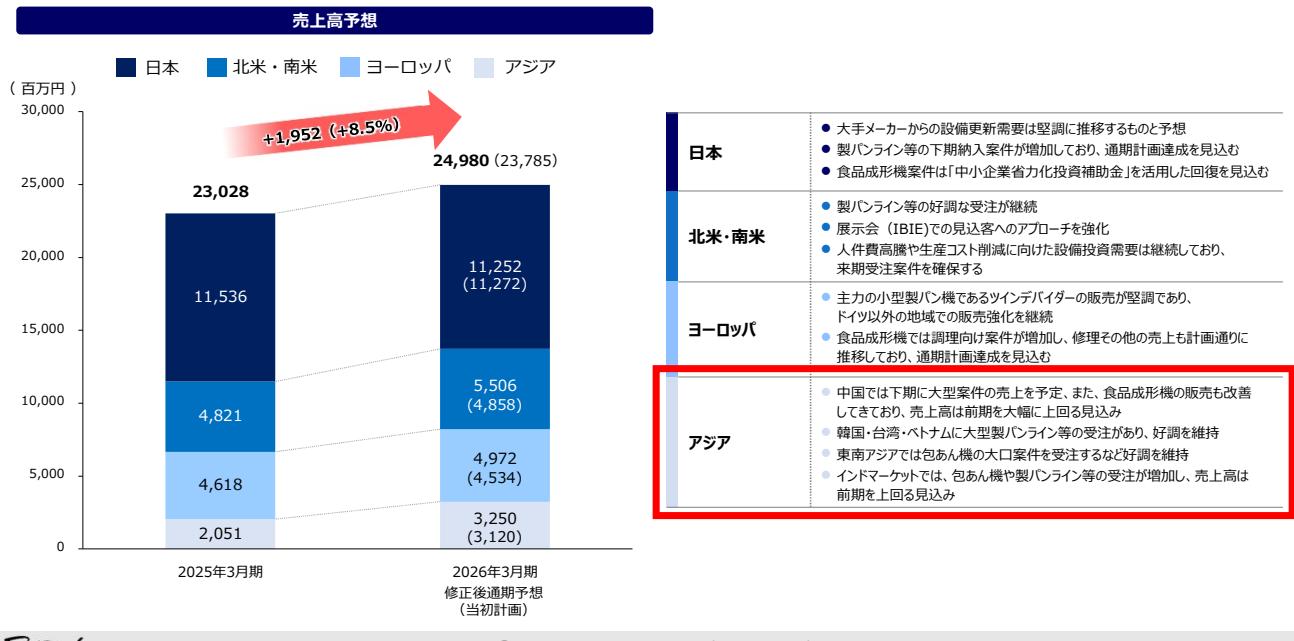
ヨーロッパ市場では、  
主力機種である小型製パン機の販売が  
ドイツ及び周辺国を中心に好調に推移すると見込まれます。

また、東欧諸国における製パンライン等の需要もますます広がりつつありますので、  
重点的に営業展開をしてまいります。

包あん機におきましては、  
引き続きケータリングサービス向けの調理製品や、  
スーパー・マーケット向け冷凍食品の売上が好調であり、  
受注が継続すると予測しております。

ヨーロッパ全体としましては、下期納入案件が多く見込まれ、  
売上高は前年比で増加するものと予測しております。

## ◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業



RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

25

アジア市場においては、

売上高は前年比で増加するものと予測しております。

中国では大型製パンラインの受注が見込まれます。

また、台湾や東南アジア市場でも設備投資需要がえるると予測しております。

包あん機においても、中国では回復傾向にあり、

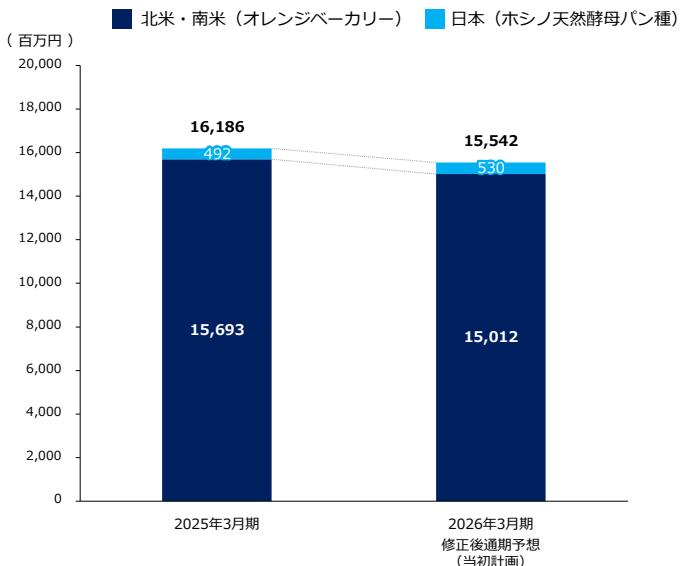
前年より販売が増加すると見込んでおります。

また、インド、インドネシアやタイ、フィリピンなど

東南アジア地域からの受注も好調に推移すると見込んでおります。

## ◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

### 売上高予想



#### 北米・南米（オレンジベーカリー）

- 一部顧客への販売が終了し、上期は減収となった
- 新規顧客を開拓すべく、新商品提案営業を強化し下期での回復を図る

#### 日本（ホシノ天然酵母パン種）

- 各種展示会への出展、大口顧客への接触強化により拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

次に「**食品事業**」の見通しです。

下期もアメリカのオレンジベーカリーは、  
会員制倉庫型スーパー や レストラン 向け商品の需要継続を予測しておりますが、  
売上高は現地通貨ベースでは昨年同等、  
円ベースでは減少するものと見込んでおります。

国内のホシノ天然酵母パン種におきましては、  
売上高は昨年度と同程度と予測しております。

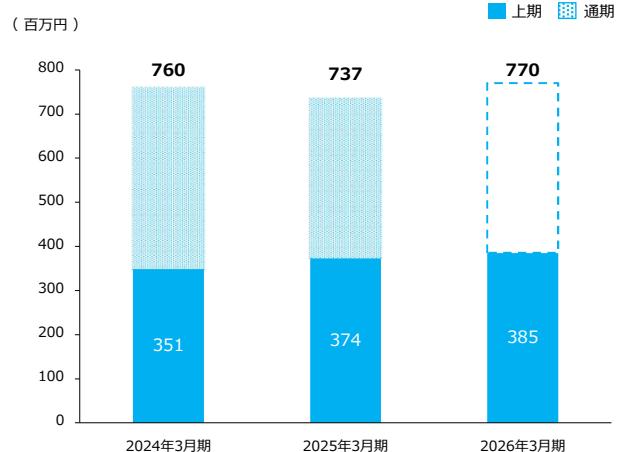
## ◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2026年3月期

オレンジベーカリー新工場の土地、建物取得により設備投資額が大幅に増加。  
上河内工場ではオートストアの導入やDNCラインなどの工作機械の投資を実施。

設備投資額・減価償却費

研究開発費



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

27

参考までに、

今期の設備投資額は、60億5千万円を見込んでおります。

減価償却費、研究開発費は、当初予測と変わりなく進んでおります。

上期の設備投資の主なものは、

上河内工場のオートストア導入や、

オレンジベーカリー新工場の不動産取得費であります。

## ◆オレンジベーカリー新工場の進捗状況

- 2025年7月、カリフォルニア州アーバイン市にある  
オレンジベーカリー第1工場隣接の土地、  
および事務所付き倉庫を取得。

写真① オレンジベーカリー新工場周辺地図



写真② オレンジベーカリー新工場

Orange  Bakery

ここで、オレンジベーカリー新工場建設計画の進捗状況を説明します。

7月にカリフォルニア州アーバイン市にある  
第一工場隣接の土地1万1千平方メートル（3,300坪）  
および事務所付き倉庫を取得し、  
現在、新工場の設備計画の詰めを行っております。

取得した物件はジョン・ウェイン空港からも近く、  
利便性の良い場所にあります。

写真②の左側建物が第一工場で、右側が新工場となります。

## ◆オレンジベーカリー新工場の進捗状況

- 製パン販売事業のほか、スマートファクトリーに向けたモデル実験工場の役割を担い、当社の食品加工機械の実証実験を行う。



■新工場外観（今後、食品工場に改築予定）



■オレンジベーカリー第1工場から見た新工場



Orange  Bakery

RHEON

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

29

写真は、現在の状況です。

倉庫物件を取得し、当社で食品工場に改裝してまいります。

当初の計画に対し、

建物引き渡しの遅れやトランプ関税の影響等による計画見直しを行い、  
2026年2月着工を目標に進めております。

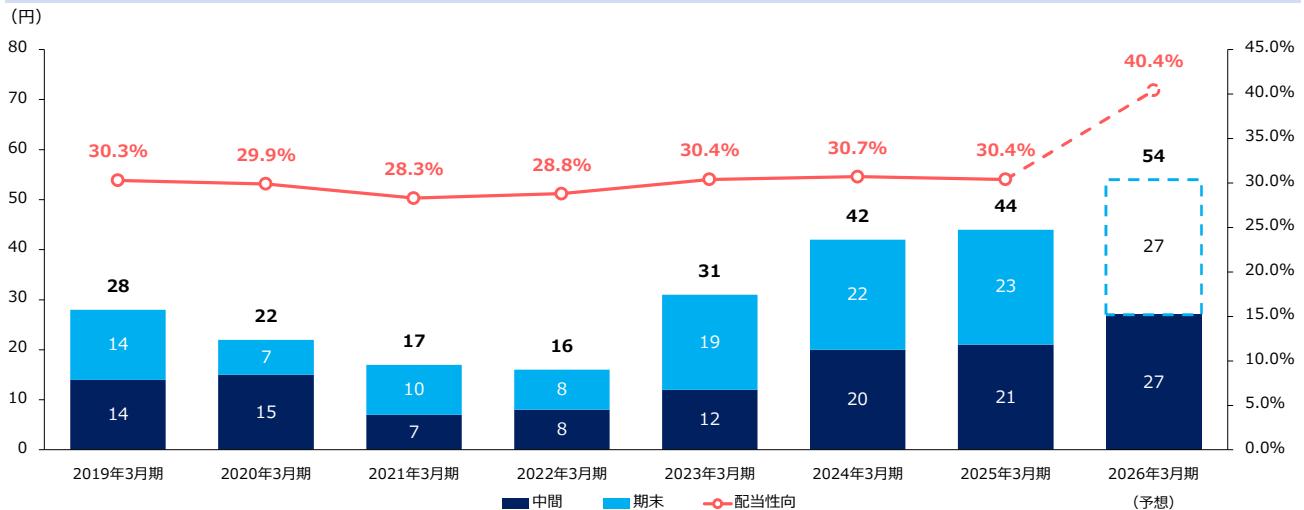
操業開始予定時期は、2027年4月で変更ありません。

新工場では、製パン販売事業のほか、  
スマートファクトリーに向けたモデル実験工場としての役割を担い、  
当社の開発する食品加工機械の実証実験も行う予定です。

以上、オレンジベーカリー新工場に関する進捗状況でした。

## ◆ 配当方針

- 当中期経営計画期間中（2026年3月期から2028年3月期）の連結配当性向の目標を40%以上とし、業績等を総合的に勘案し、安定的な「累進配当」を行うことを基本方針とする。
- 今回、業績予想の修正に合わせ、配当予想も54円（当初予想比6円増配）に修正した。



RHEON

30

次に配当方針ですが、  
今期から配当方針を変更いたしました。

当中期経営計画期間中の  
連結配当性向目標を40%以上とし、安定配当を維持するため  
に「累進配当」を行ってまいります。

2026年3月期 上期は、  
前期より6円増配となる27円といたしました。

通期では、54円の配当を予定しております。

◆ レオングループのアイデンティティ

社 是

## “存在理由のある企業たらん”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、  
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。  
これまで、これからも、存在理由のある企業であり続けることが  
レオングループの大切にしていることです。



最後になりますが、当社の理念は、  
独自技術に基づく自社製品を通じて、食品業界のお役に立ち、  
また世界の食文化に貢献することであり、  
これが、当社の存在理由でもあります。

近年、食を取り巻く環境は大きく変化し、  
食品業界では、食の安心・安全の確保をはじめ、  
食品ロスなど多様化する課題に直面しております。  
レオン自動機は、こうした お客様の課題解決に、  
ともに取り組むパートナーとして、  
永続的に「存在理由のある企業」であり続けるため、  
社員一人ひとりが変革に挑戦してまいります。



《社名の由来》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（故 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包ん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、  
今後とも、よろしくお願ひいたします。

ご清聴ありがとうございました。